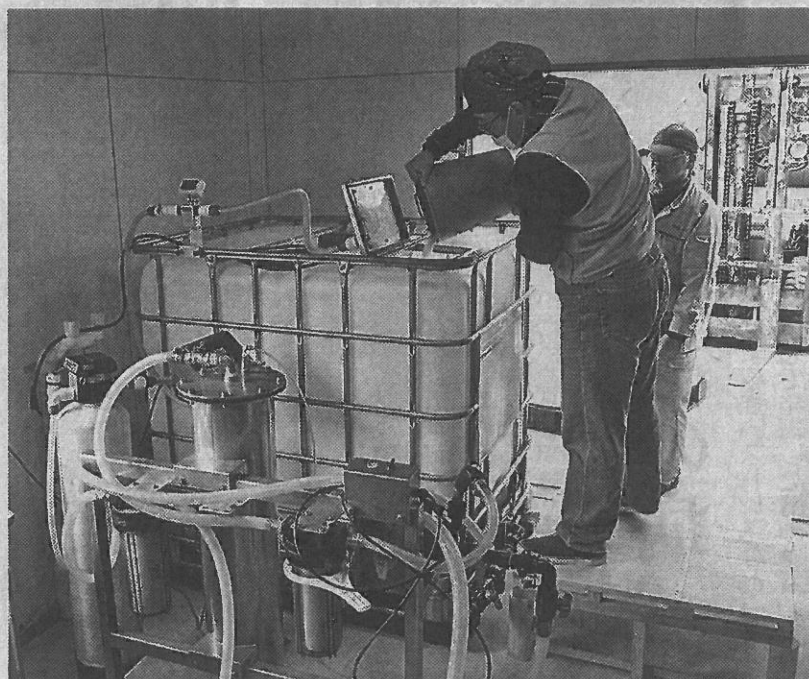


障がい者就労を支援



3～5人が従事し、月間10～15トンを生産する計画

無 垢

エコツォーライトの製造委託

拠点分散、リスクヘッジも

【広島】道原運送（道原伸二社長、広島県三原市）のグループ会社である無垢（同）は、社会福祉法人神石よつば会（延岡博行理事長）と業務提携し、同社で取り扱っている尿素水エコツォーライトの製造の一部を委託した。障がい者の就労を支援するとともに、リスクヘッジとしても位置付けており、4月から操業を開始している。

（矢野孝明）

同会が運営している就労継続支援B型事業所のゆきプラントを設置。費用は無垢が負担した。作業所に通う障がい者3～5人が従事し、週3日前後の稼働で月間10～15トンの尿素水を生産する計画。品質の均一化と安全性を保つため、管理基準を同社と統一したほか、全製品のサンプルを取り置くことで流通履歴の追跡も可能となっている。

業務委託する意義について、道原社長は「社会貢献の一環であると同時に、当社にとっては製造拠点を分散することで、リスクヘッジのメリットも出る」と説

明する。また、延岡理事長は「作業所に依頼される仕事に限られる中、安定した収入を見込めるありがたい事業だ。需要が増えれば、他の作業所にも展開できる。施設で作った尿素水を積極的に使ってもらおうと行政などにPRしながら、販売に

も協力していきたい」と話している。なお、エコツォーライトの製造元であるオプティ（猪野栄一社長、三重県川越町）では、これまで全国4カ所で障がい者施設に製造を委託しているが、代理店としては初となる。